優秀賞

私と交通安全、無事故の秘訣

（中部）　駿遠運送（株）　　東　　陽之

私は交通事業に従事する従業員の一人として、日々、交通安全に努めております。交通に関わる仕事は、時間管理やルートの最適化など多くの要素が求められますが、何よりも最優先すべきは「安全運転」です。どれだけ業務を効率よく進めたとしても、事故を起こしてしまってはすべてが水の泡になってしまいます。安全はあらゆる業務の土台であり、責任そのものだと私は考えています。

私たちの現場では、安全運転を徹底するために、日頃からさまざまな取り組みがなされています。中でも、私が特に有効だと感じているのが「危険マップ」の作成と活用です。これは、各運転手が運転中に気づいた危険箇所やヒヤリ・ハットの経験を地図上に落とし込み、全員で情報を共有する仕組みです。たとえば「この交差点は右からの飛び出しが多い」「この道は朝に逆光になって見えづらい」など、運転中の感覚や注意点を細かく記録し、それを見える化することで、安全意識を高める手助けとなっています。

こうした情報は、毎朝の朝礼で支店長から全員に共有されます。直近で報告された危険箇所や、最近の事故例、それに対する対応策などが具体的に伝えられ、日々の運転の際に活かせるようになっています。私はこの朝礼での情報共有の場をとても大切にしています。単に地図を見るだけではなく、支店長の説明や同僚たちの声を通じて、現場の“空気”を感じ取り、より現実味を持って危険を認識することができるからです。

ある日、朝礼で「通学時間帯に、自転車の飛び出しが多い」と共有された地点を通過する予定がありました。私はその情報をしっかりと頭に入れ、いつも以上に減速して周囲に注意を払いながら走行しました。すると実際に小学生が急に飛び出してきたのです。幸い、スピードを落としていたため余裕をもって停止でき、事故には至りませんでした。この経験から、事前情報の重要性と、共有することの大切さについて、身をもって学びました。

また、安全運転において忘れてはならないのが、「慣れによる油断」です。毎日のように同じルートを走っていると、無意識のうちに「今日も大丈夫だろう」という過信が生まれがちです。しかし、事故はまさに「慣れた道」で発生しやすいものです。たとえば、いつも通る交差点で歩行者が急に飛び出してきたり、路肩に停車していた車が突然動き出したりというような、“予想外”は常に起こり得ます。だからこそ私は、「同じ道でも、毎回が初めてのつもりで運転する」ことを心がけています。

もうひとつ、無事故を支える大きな柱が「職場の風土」です。私たちの職場では、運転中に感じた危険や気づきを気軽に報告し合える雰囲気があります。上司や同僚に対して「こんなことがあった」と話すことが当たり前になっており、それが危険マップや朝礼の情報共有にも反映されています。「情報を出し合うのは、自分のためだけでなく、仲間のためでもある」という意識が自然と根付いているのです。こうした風通しのよさ、チームで安全を守る文化こそが、事故防止において最も力強い要素だと私は感じています。

交通事故は、たった一瞬の判断ミス、たった一度の見落としから発生します。しかし、その結果は重大で、時には人の命に関わることさえあります。だからこそ私は、「万が一」を常に想定しながら、慎重に運転を重ねています。信号が青になってもすぐには発進せず、一呼吸置いてから左右を確認する。見通しの悪い道では速度を落とし、いつでも停止できるように構えておく。バック時には目視確認を欠かさず、少しでも不安があれば一度降りて状況を確認する。そうした「基本に忠実な行動」こそが、私たちの命と信頼を守る鍵だと確信しています。

私にとっての無事故の秘訣とは、「チームで作る安全」と「当たり前を徹底すること」に尽きます。一人ひとりの注意力には限界がありますが、仲間の経験や気づきを取り入れることで、見落としを補い、危険をより広い視野でとらえることができます。そして、その情報を惜しみなく共有し合える環境があるからこそ、私たち全体の安全意識が維持・向上されているのです。

これからも私は、日々の運転に真摯に向き合い、仲間と協力しながら、無事故・無違反を継続していきたいと考えています。交通の仕事に携わる者として、「安全こそ最大の価値」という思いを胸に、これからも確実に一歩一歩を進めていきたいと思います。